

2021. 5. 10 策 定

2021. 10. 30 一部修正

2022. 05. 09 一部修正

令和4年度

鹿児島県中学生ジュニアラグビー大会

感染拡大予防ガイドライン

主催 鹿児島県ラグビーフットボール協会

主管 鹿児島県ラグビーフットボール協会中学委員会

感染拡大予防ガイドライン

1. 令和4年度中学ジュニアラグビー大会の開催にあたっての基本的な考え方について

- (1) 大会の開催については、地域の感染状況を踏まえ、関係者全員の安全・安心を最優先し、実施の可否を判断する。なお、判断に迷う際は、県ラグビー協会又は県保健体育課や衛生部局等に相談の上、判断する。
- (2) 県からの自粛要請や屋外での施設収容率や上限人数に従う。
- (3) 県内外における感染拡大の兆候やスポーツイベントにおけるクラスターの発生があった場合、県の協力の要請等に基づき、無観客化、中止等の適切な対応を行う。万が一中止や大会中断となった場合は、県ラグビー協会及び中学委員会が中心となって、上位大会への参加校を決定することになる。その際は、県ラグビー協会・中学委員会・各チーム指導者による協議の場を持つこととする。

2. チーム関係者に求められる対応

- (1) 試合当日、以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせること
 - ① 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛・味覚や嗅覚異常などの症状がある場合）
 - ② 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ③ 過去14日以内に感染者との濃厚接触がある場合 ※事前に体調記録表（様式1）または同等の様式に記録をつけさせておく。
- (2) 試合会場でチーム関係者に求められる対応（競技に関わる選手、チームスタッフ）
 - ① マスクを持参し、競技中やウォーミングアップ中を除いて着用する。
 - ② こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施。握手、抱擁などは行わない
 - ③ 他の参加者、主催者スタッフ等とのソーシャルディスタンス（2m、最低1m）を確保する
 - ④ 大きな声で会話や応援等を極力しない。保護者の応援は「拍手での応援」を依頼する。
 - ⑤ 手洗い後等に使用するマイタオルを持参し、タオルの共用をしない。
 - ⑥ 開催会場及び主催者、管理者が定めた措置を順守し、従うこと。
 - ⑦ 試合開催終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、鹿児島県ラグビーフットボール協会中学委員会に対して速やかに濃厚接触者の有無等にとともに報告すること。
- (3) 試合会場に向かう前にチーム名簿作成（競技に関わる選手、チームスタッフ）
 - ① 会場に入場するチームの全選手名簿及び試合会場に来場するチームスタッフの全員が記載された「体調確認表（様式2）」を作成し、提出する。
 - ② 会場に入場する選手の保護者（家族を含む）全員記載された「保護者入場者名簿（様式3）」を作成し、提出する。
- (4) 試合会場への移動時に求められる対応
 - ① 移動時はマスクを着用する。
 - ② 宿泊が伴う場合には、宿泊者の行動をチーム責任者は把握し、繁華街等への外出は控えさせる。
 - ③ バスで移動する際は、可能な限り席の間隔をあけて座り、車内の換気に留意する。
 - ④ 公共交通機関で移動する場合は、各個々人に政府が推奨する感染予防策を徹底する。
 - ⑤ 食事を取る際は会話をせず、残飯等の廃棄物は個人及びチームが適切に処理すること。
- (5) 試合会場到着後、入場時及び会場で求められる対応
 - ① 「体調確認表（様式2）」および「保護者入場者名簿（様式3）」を大会本部に提出し、問題がないことを相互確認する。
 - ② 選手控え所でもソーシャルディスタンス（2m、最低1m）を確保するよう意識付けをする。

- ③ 到着後に会場へ移動する際は、必ずマスクを着用する
- ④ 食事を取る際は会話をせず、残飯等の廃棄物は個人及びチームが適切に処理すること。
- (6) 試合入場時、試合中及びチームベンチで求められる対応
 - ① 選手入場は両チーム別々に入場。キックオフ前の校歌斉唱は行わない。
 - ② 試合中ベンチで待機するリザーブ選手やチームスタッフは引き続きマスクを着用する。但し、ウォームアップ時や交代直後の選手など、健康状態の維持に支障が出る場合を除く。
 - ③ 試合中ベンチで待機するリザーブ選手、チームスタッフは、マスクを外して大声を出して応援、指示を出さない。
 - ④ タオルやドリンクボトル、アイシング用の氷の共用はしない。
 - ⑤ 飛沫感染を防止するため、メディカルスタッフ、及び給水係は防水性がある手袋を着用する。
 - ⑥ ピッチ上に唾や痰をはくことは極力行わない。
 - ⑦ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を排水設備のない場所以外に捨てない。
- (7) 試合終了後に求められる対応
 - ① 試合終了後は速やかに控え場所に移動し着替えは控え場所で行う。シャワー室は開放しません。
 - ② 試合終了後は、マスクを着用させる。
- (8) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各チーム責任者は、日常の活動時も含め、上記項目の周知を行う。

3. マッチオフィシャル、レフリー、コーチ、関係者、に求められる対応

- (1) 試合会場に向けた出発前～試合会場到着
 - ① 日頃より、各自健康状態を確認しておく。
 - ② 移動時はマスクを着用する。
 - ③ 宿泊が伴う場合には、可能な限り一人一部屋とし、部屋間の往来は避ける。
 - ④ 同乗車両で移動する際は、可能な限り席の間隔をあけて座り、車内の換気に留意する。
 - ⑤ 公共交通機関で移動する場合は、各個々人に政府が推奨する感染予防策を徹底する
- (2) 試合会場到着後～試合開始
 - ① 「体調確認表」(様式2)を受付で記入し、協会の責任者と問題がないことを相互確認する。
 - ② 到着後、必ずマスクを着用し、ソーシャルディスタンスを物理的に可能な限り確保する。
 - ③ ドレスチェック時はマスクを着用し、可能な限りソーシャルディスタンスを保つ。
 - ④ コイントスはソーシャルディスタンスを確保し、かつ通気性の良いピッチサイドなどの場所で行う。
 - ⑤ 使用するホイッスル、カード、無線機、フラッグの消毒をする。
 - ⑥ 試合開始時、密集を避けるため、チーム入場後にピッチへ入場する。
- (3) 試合中
 - ① タオルやドリンクボトルの共用はしない。
 - ② チーム、選手へのインストラクション時はソーシャルディスタンスを保つ。
 - ③ 運動・スポーツ中に、唾や痰をはくことは極力行わない。
 - ④ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を排水設備のない場所以外に捨てない。
 - ⑤ レフリー、第1・第2アシスタントレフリーを除くマッチオフィシャルはマスクを着用する。
- (4) 試合終了後
 - ① レフリー、第1・第2アシスタントレフリーは、密集を避けるため、チーム退場後にピッチを退場するか、選手が相手チームベンチに挨拶を行う場合は、そのタイミングで退場する。

4. ボールパーソン（レフリーの給水係含む）に求められる対応

- ① マッチボールが消毒されていることを確認する。消毒がされていない場合には、試合で使用される前に、全球を消毒する。
- ② 試合開始時の密集を避けるため、チーム入場前にピッチサイドでスタンバイする。
- ③ 試合中、引き続きマスクを着用する。
- ④ 選手、チームスタッフ、運営スタッフとのソーシャルディスタンスを保つため、競技進行に支障をきたさない範囲であれば、ボールの手渡しは避けてもよい。
- ⑤ 試合中、試合球を拭くためのタオルは選手へ渡さない。
- ⑥ レフリーの給水サポートはボールパーソンは行わない。
- ⑦ 自身のタオル、ドリンクボトルを他者と共有しない。
- ⑧ 試合終了後、試合球は協会スタッフへ返却する。消毒は、協会スタッフが行う。
- ⑨ 試合終了後、使用したタオルは確実に袋に入れ、チームで適切に処理する。

5. 会場運営計画立案時の留意事項

試合会場における感染対策の基本方針

- (1) チーム及び各関係者の会場入場口を2か所以内（各コート1か所）で設定する。
- (2) チーム及び各関係者は会場入場口で検温を行う。体温が37.5℃以上の選手及び関係者が出た場合は、チームとしての出場を協議する。
- (3) 会場の消毒
試合開催日に使用するテーブル、イス等は、使用前に消毒を実施する。
- (4) 簡易消毒
受付や本部席に手指消毒液を設置し、感染リスクを下げるための対策を行う。
- (5) 全試合、無観客で実施する。但し、保護者（選手の家族）のみ許可とする。その場合、保護者の管理責任はチームが行う。
 - ① 当日の保護者入場者名簿（様式3）を提出する。
 - ② マスク着用、手の消毒を行う。
 - ③ 声を出して応援しない。拍手で応援する。
 - ④ 応援者が密にならないよう間隔を取る工夫をする。
- (6) チーム関係者以外の一般客も入場を認める場合
競技施設の入場制限の範囲内で、また、「三つの密」が発生しない席の配置や「人と人との距離の確保」ができる場合は、一般観覧者の入場を認める。その際は、「一般観覧者名簿（様式6）」に名前及び連絡先を記入してもらう。状況によって、入場をお断りする場合もあり得る。